

《 給油口ボックス処理要領 》

- ボックス内部品（ストップ弁・ホース・配管類・ストレーナー等）を撤去する。
- ボックス内部清掃（油膜分を取り除く）
- 蓋、L型キャップを撤去する。
- 撤去後のモルタル埋めは建築工事とする。

番号	名称	数	備考
①	異形エルボ	1	PT 1/2×1/4
②	ニップル	2	PT 1/4
③	ボールバルブ	1	PT 1/4
④	直管	1	PT 1/4
⑤	ユニオン	1	PT 1/4
⑥	ストレーナー	1	PT 1/4
⑦	ホースジョイント	1	PT 1/4
⑧	油受け皿	1	樹脂製

《 減圧弁を設置する場合 》

- ストレーナーを減圧弁の一次側に設置する。
- 減圧弁のメンテナンスバルブを設置する。
- 減圧弁は調整圧力レンジを確認し、戸別タンクと同等の供給圧になる高さに設置する。

注：ボックス開口部にホースジョイントの向きを合わせること。

※給油口ボックスが閉じた状態で使用できるように施工すること。（ホースジョイントの向きに注意）

18 中継タンク詳細図 S=1/20

(1) 鋼板厚 3.2 t 加工は全溶接とする。
見え掛り錆び止め塗装のうえ、OP2 回塗り仕上げとする。

(2) 中継タンク廻りの弁は、7177' 五形弁 (F' は F700 製、N' は H350+H2200 (灯油使用可能品 0.98MPa)) とする。

19 戸別タンク詳細図 S=1/20

(1) 鋼板厚 3.2 t 加工は全溶接とする。
見え掛り錆び止め塗装のうえ、OP2 回塗り仕上げとする。

(2) 中継タンク廻りの弁は、7177' 五形弁 (F' は F700 製、N' は H350+H2200 (灯油使用可能品 0.98MPa)) とする。

20 屋外排水縦管要領 S=1/20

(1) 各階に伸縮継手を取り付ける。
(2) 伸縮継手を壁に固定する。
(3) 伸縮継手は合流直上に取り付ける。

21 根切り埋戻し要領

注) 山砂の頭で入念に埋戻す。

22 構内舗装復旧要領

表層工 (既設の合材と同種 (ただし、7x7x の場合は修正 1' t)) t=5cm
 上層路盤工 (粒皮調整砕石) t=7cm
 下層路盤工 (φ40 以下再生ガラリキラー) t=10cm
 下層路盤工 t=15cm (φ40 以下再生ガラリキラー)
 路床工 (山砂)
 既設道路工の厚さ以上又は 30cm 以上影響線外まで